



温泉施設で風呂上がりに瓶入り牛乳を飲む平松歩乃果ちゃん（左）と母親の里乃さん＝6月、大分市明野東

# 消える？ 瓶牛乳

## 大手メーカー撤退相次ぐ

食卓や銭湯で親しまれてきた瓶入り牛乳をあまり見かけなくなった。瓶の回収や洗浄に労力やコストがかかることを理由に、大手乳製品メーカーでは販売の終了が相次いでいる。県内でも紙パックやペットボトル容器での供給にほぼ置き換わっているようだ。だが、品質や風味の保持に優れるとされるほか、レトロ感もあつて根強い支持があり、中津市では瓶詰め工場を新設する動きも出ている。

「冷たくておいしい！」。6月下旬、大分市明野東のアサヒ温泉。風呂上がりの平松歩乃果ちゃん(7)と市仲西町IIは母親の里乃さん(29)と瓶入り牛乳を飲み干し、白いひげをつけた満面の笑みで言った。店のスタッフによると、1日平均50本ほどが売れる。安定した需要があり、仕入れを続けている。

## 中津では工場新設も レトロ感に根強い支持

九州乳業(大分市廻栖野)では、瓶入りの売上本数は10年前に比べて約7割減ったものの、生産を続けている。

マーケティング部の吉屋寿志さん(40)は「契約する販売店の力で宅配を維持できていることが大きい。風呂上がりの『あのスタイル』を失うわけにはいかない」と強調する。

「みどり牛乳」の発売開始から60周年の今年、瓶口を覆うカバーの色を長年の紫からブランド名と同じ緑色に変える工夫もした。交流サイト(SNS)で「映える」と、若者からも一定の支持を集めている。

中津市に新しく牛乳の瓶詰め工場を建設するのはグリーンコープ共同体(福岡市)と下郷農協(中津市)だ。本年度中の操業開始を目指すし、年間約700万本(1本900円)の出荷を計画している。

グリーンコープ生活協同組合おおいた(大分市)は21年前に紙パックから瓶に変えた。「紙パックは冷蔵庫の他の食品の臭いが移り

やすい」として、組合員から要望があつたためだ。瓶入りは▽風味を損なわない▽殺菌のために煮沸する温度を低く抑えられる▽30回以上、再利用できる▽などのメリットが多いという。

業師寺ひろみ理事長(62)は「紙の手軽さよりも、環境への優しさや素材の本質を優先させた」と説明する。食に関する研究や調査をしている立松食育研究所(大分市)の立松洋子さんは「瓶入りは透明な見た目や唇が触れた時の冷たさなど、五感からおいしさが増すのではないかと。減少したのは学校給食になくなったことが大きく、特に子どもへのなじみが薄くなっている」とみている。

(見屋野香純)



有力な乳製品メーカーには瓶入り牛乳からの撤退が相次ぎ、近年は小岩井乳業(東京都)が2021年、森永乳業(同)が今年3月末でそれぞれ販売を終了した。農林水産省の調査によると、県内で2022年10月に生産された牛乳のうち、瓶入りは1・3%にとどまる。



〔問①〕 瓶入り牛乳は減り、どんな容器に代わっていますか。

〔問②〕 瓶入り牛乳が減っている理由は何でしょう。

〔問③〕 瓶入り牛乳は根強い支持があるとしています。理由は？

〔問④〕 大分県内で2022年10月に生産された牛乳のうち、瓶入りは何%ですか。

〔問⑤〕 減っているけど残してほしいものはありますか？ あれば発表しよう。